栄小学校だより

令和６年２月１５日（木） No.４３

○モスビー作り（２年）

2月13日(火)の5限目・6限目に2年生がモスビー作りを行いました。モスビーとは，人工ミズゴケの上に多肉植物を植え，フェルトや飾りをつけた置物の事です。
(写真参照)
講師の先生は，「鈴鹿花き」の藤田政也先生です。
子どもたちは，先生の説明後，どの子どもも楽しんで創作活動を行うことができました。自分の好きなものをモチーフにして作ったり，自宅で飼っているペットにそっくりなデザインにしたりして，とても上手にできました。どの作品も個性が出て、かわいく，とても素晴らしい作品となりました。子どもたちの満足そうな笑顔がいっぱいの授業となりました。
※この授業は，栄地区青少年育成町民会議地域講演会として補助を受けて行いました。

○光と熱の出前講座（６年）

2月13日(月)の5限目・6限目に6年生が「光と熱の出前講座」を受けました。講師の先生は、「三重県地球温暖化防止活動推進員」として活動されている落合先生と吉田先生です。
授業では、人は電気エネルギーを熱・光・動力・その他のエネルギーに変換して利用して生活をしていることや「電気」というエネルギーをどのように作りだすかの勉強をしました。
先生方は、火力発電等の発電の原理を簡単な実験道具を提示してくれながら丁寧に教えてくださいました。
詳しいエネルギー変換や発電・発電の原理等は、中学校の理科や技術で学習をします。
分かりやすく授業をしてくださいました、講師の先生方、ありがとうございました。

○読み聞かせ活動（５年）

2月13日(火)、新しい試みとして、5年生が昼休みに4階ランチルームで全校児童を対象に読み聞かせ活動を行いました。この日は、3つのグループにて読み聞かせ活動を行いました。読み手は、もちろん5年生です。ランチルームに集まった1年生から6年生のみなさんは、5年生の読む絵本を熱心に見て、聞いていました。今回の活動をしてくれた5年生のみなさん、聞きに来てくれたみなさん、参加してくれてありがとう。

☆特集　保護者に向けた　「親塾シリーズ１７」

子どもの能力をのばす“親バカ”になろう！

お子さんが小さい時にこんな事はありませんでしたか？

私も自分の子どもが幼い時、何気ない一面を見て思ったことです。（今思うと恥ずかしい。）
お友達より、少しかけっこが早いわが子に、「運動神経抜群！将来はスポーツ選手だ」と言う親。
テレビから流れるアニメソングを歌ってわが子を見て、「なんて記憶力がいいんだ」とか、「歌がとっても上手！」など、わずかなことで、大喜びし、感激している親、まさに親バカです。ですが、こうした子どもの可能性を信じて、能力を過大評価すること（＝褒め）は、決していけないことではありません。むしろ、子どもを信じて伸ばすことに繋がります。

親子の絆を深める親バカとは？

ひらがなを書けるようになった子どもから、記念日にもらった「ありがとう」の手紙を大切にいつも持ち歩く親。風邪気味の時、子どもから「大丈夫？」なんて少し優しい言葉をかけられると、「なんて優しい子」と涙を流して喜ぶ親、こちらも親バカですね。
このような親バカって、親子の絆が深まる素晴らしい親バカです。

子どもを伸ばす素敵な親バカになるための2つのチェックポイント！（≠バカ親）

その1　その親バカは、他人に迷惑をかけていないか

例えば、コンビニや公共の乗り物の中で走ったり騒いだりするのは、人に迷惑をかけます。このような時はわが子をきちんと注意しましょう。
では、子どもの写真を友人に見せる時はどうでしょうか？
少し見せるだけなら親バカでいいのですが、何度も何枚も見せ、いちいち「可愛い」とか「頑張っているわね、えらいのね」など言わせるのは、NG。相手は、うんざりしていることも。バカ親にならないように気をつけたいですね。

その2　その親バカは、子どもの学ぶチャンスを奪っていないか

子どもが一人でやろうとしている機会を奪っていないか、手を貸す前に考えましょう。子どもの成長には、直接手を貸すのではなく、見守ってあげることが大切です。

どんな時も「私の中であなたは一番」と迎える素晴らしい親バカに！

「親バカ」は一見、愚かな親のようにも感じますが、子どものためにバカになってやれるのも親ならではでしょう。そして将来、勉強でも、スポーツでも、芸術でも何かに才能を発揮する子どもたちの親は、ほとんどが親バカと言えるでしょう。子どもの可能性を信じ、信頼関係を深め、そして同じ目標に向かって歩んで行く、素晴らしですね。もし、望んだ道に進まなくても、「よく頑張ったわね、あなたは私の中で一番よ」と笑顔で迎え入れる親バカ、親子で共有した時間は、子どもの心を強くし、親子の貴重な宝物になります。
親子の信頼関係を深め、子どもの可能性を伸ばす、素敵な「親バカ」になりたいですね。